

文部科学省平成 19 年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」採択取組
ICT 活用教育と従来型臨床現場実習の連携

第 4 回

医療系大学 e-ラーニング全国交流会

抄録集

会期：平成 22 年 2 月 19 日（金）～20 日（土）

場所：東京医科歯科大学歯学部特別講堂

主催：東京医科歯科大学

文部科学省平成19年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」採択取組
ICT活用教育と従来型臨床現場実習の連携

第4回 医療系大学 e-ラーニング全国交流会

大会長

東京医科歯科大学歯学部長 田上 順次



テーマ：医療系教育における e-ラーニングと著作権

会期：平成22年2月19日（金）－20日（土）

会場：東京医科歯科大学歯学部特別講堂（東京・御茶ノ水）

参加費：無料

主催：東京医科歯科大学

大会長：東京医科歯科大学歯学部長 田上 順次

実行委員長：歯学部口腔保健学科口腔疾患予防学分野 木下 淳博

第4回医療系大学e-ラーニング全国交流会事務局

東京医科歯科大学附属図書館メディア情報掛

住所：〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45

電話：03-5803-5599

FAX：03-5803-0220

プログラム

第1日目 平成22年2月19日(金)

12:30 - 13:00 受付

13:00 - 13:10 開会の辞 大山喬史 東京医科歯科大学長

13:10 - 13:25 ご挨拶 古田和之 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室課長補佐

13:30 - 17:00 各校からの取組紹介・話題提供(発表10分、討論5分)

13:30 - 14:30 セッション1

座長 荒木孝二(東京医科歯科大学 医歯学教育システム研究センター)

13:30 - 13:45

1 医歯学シミュレーション教育システムによる教材開発と活用

須永昌代¹⁾, 山口久美子²⁾, 窪田哲朗³⁾, 大川 淳⁴⁾, 木下淳博¹⁾, 大谷啓一⁵⁾, 荒木孝二⁶⁾, 田中雄二郎⁷⁾

東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科 ¹⁾ 口腔疾患予防学分野,
東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 ²⁾ 臨床解剖学分野, ⁴⁾ 整形外科学分野,
⁵⁾ 硬組織薬理学分野, ⁷⁾ 臨床医学教育開発学分野,
東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究科 ³⁾ 生体防御検査学分野,
東京医科歯科大学 ⁶⁾ 医歯学教育システム研究センター

13:45 - 14:00

2 医歯学シミュレーション教材を活用した自己学習状況について

大山 篤¹⁾, 須永昌代²⁾, 権沢勇司³⁾, 小長谷 光⁴⁾, 荒木孝二⁵⁾, 俣木志朗⁶⁾, 木下淳博²⁾

¹⁾ 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 歯科総合診療部,
²⁾ 東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科 口腔疾患予防学分野,
³⁾ 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 顎口腔外科学分野,
⁴⁾ 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 麻酔・生体管理学分野,
⁵⁾ 東京医科歯科大学 医歯学教育システム研究センター,
⁶⁾ 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 科医療行動科学分野

14:00 - 14:15

3 オープンキャンパスでのアドミッション・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの提示のためのeラーニング活用

小松博義¹⁾, 齋藤朝子¹⁾, 元藤陽子¹⁾, 木下淳博²⁾, 芝 紀代子¹⁾

¹⁾ 文京学院大学 保健医療技術学部, ²⁾ 東京医科歯科大学 歯学部

14:15 - 14:30

4 オープンキャンパスへのICT活用教育の導入とその評価について

元藤陽子¹⁾, 齋藤朝子¹⁾, 小松博義¹⁾, 木下淳博²⁾, 芝 紀代子¹⁾

¹⁾ 文京学院大学 保健医療技術学部, ²⁾ 東京医科歯科大学 歯学部

14:30 - 14:45 休憩

プログラム

14:45 - 15:45 セッション2

座長 田上順次（東京医科歯科大学 大学院医学歯学総合研究科 う蝕制御学分野）

14:45 - 15:00

5 「Why e-Learning?」にこだわった、産業医大における e-Learning 実践のご紹介

柴田喜幸

産業医科大学 産業医実務研修センター

15:00 - 15:15

6 e-ポートフォリオによる地域体験実習評価の試み

丹羽雅之^{1, 2)}, 鈴木康之¹⁾

¹⁾ 岐阜大学 医学部 医学教育開発研究センター (MEDC),

²⁾ 岐阜大学 大学院連合創薬医療情報研究科

15:15 - 15:30

7 ビデオによる解剖実習課題の示説: e-learning system の特性を活用した利用法の検討

秋田恵一, 山口久美子

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 臨床解剖学分野

15:30 - 15:45

8 ICT を活用したブレンド型授業による医学英語教育

岩田 淳

島根大学 医学部 医療社会文化学講座

15:45 - 16:00 休憩

16:00 - 17:00 セッション3

座長 鶴田 潤（東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 歯学教育開発学分野）

16:00 - 16:15

9 看護教育における統合的 e ラーニングの試み

福間美紀¹⁾, 中谷久恵²⁾, 足立経一^{3, 4, 5, 6)}, 勅使河原 薫²⁾, 佐藤美紀子³⁾, 小川智子²⁾, 小林裕太^{1, 7)}

¹⁾ 島根大学 医学部 看護学科 基礎看護学講座, ²⁾ 島根大学 医学部 看護学科 地域看護学講座,

³⁾ 島根大学 医学部 看護学科 臨床看護学講座, ⁴⁾ 島根大学 医学部附属病院 消化器内科,

⁵⁾ 島根大学 医学部附属病院 臨床栄養部, ⁶⁾ 島根大学 医学部附属病院 NST,

⁷⁾ 島根大学 総合科学研究支援センター 実験動物分野

16:15 - 16:30

10 e ラーニングで学ぶ医療コミュニケーション

山下早代子¹⁾, ニコラス・ユングハイム²⁾, 中村千賀子³⁾, 須永昌代⁴⁾, 木下淳博⁴⁾

¹⁾ 明海大学 外国語学部 大学院 応用言語学研究科, ²⁾ 早稲田大学 文学学術院,

³⁾ 東京医科歯科大学 教養部, ⁴⁾ 東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科 口腔疾患予防学分野

プログラム

16:30 - 16:45

11 国家試験対策を念頭に置いた医用工学分野での Web-Learning システムの活用

本間 達¹⁾, 若松秀俊¹⁾, 酒井伸枝²⁾, 荒川恭子²⁾, 関 貴行³⁾, 芝 紀代子³⁾

¹⁾東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究科, ²⁾埼玉県立大学 保健医療福祉学部,

³⁾文京学院大学 保健医療技術学部

16:45 - 17:00

12 歯科診療室—講義室間の学内 LAN 同時中継によるライブ講義システムの開発と評価

大塚紘未¹⁾, 須永昌代¹⁾, 吉田有里¹⁾, 小原由紀¹⁾, 小林宏明²⁾, 片桐さやか²⁾, 趙 永哲³⁾,
和泉雄一²⁾, 木下淳博¹⁾, 田上順次³⁾

東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科 ¹⁾口腔疾患予防学分野,

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 ²⁾歯周病学分野, ³⁾う蝕制御学分野

17:30 - 19:00 懇親会

プログラム

第2日目 平成22年2月20日(土)

9:30 - 11:10 シンポジウム「医療系教育におけるeラーニングと著作権」
(講演15分、質疑応答5分)

座長 大谷啓一(東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 硬組織薬理学分野)

木下淳博(東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科 口腔疾患予防学分野)

9:30 - 9:50

1 東京医科歯科大学におけるICT活用教育の実際とその著作権処理

木下淳博

東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科 口腔疾患予防学分野

9:50 - 10:10

2 福岡看護eラーニング研究会、小倉第一病院におけるコンテンツ作成のインセンティブ付与
と著作権処理

中村秀敏

医療法人真鶴会 小倉第一病院

10:10 - 10:30

3 慶應義塾大学医学部におけるICT活用コンテンツの実際と著作権処理

天野隆弘

国際医療福祉大学 医学教育研修センター, 山王メディカルセンター(SMC)

10:30 - 10:50

4 九州大学におけるeラーニングコンテンツ作成とその著作権処理

井上 仁

九州大学 情報基盤研究開発センター

10:50 - 11:10

5 看護実践事例eラーニングの実際とコンテンツ制作における著作権処理

真嶋由貴恵

大阪府立大学 総合教育研究機構

11:10 - 11:20 休憩

11:20 - 11:45 全体討論

11:45 - 12:00 閉会式

1 東京医科歯科大学におけるICT活用教育の実際とその著作権処理

東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科 教授
木下淳博

<略歴>

- 昭和62年 東京医科歯科大学歯学部卒業
- 昭和62年 東京医科歯科大学大学院入学（歯科保存学第二講座）
- 平成3年 東京医科歯科大学大学院修了
- 平成3年 東京医科歯科大学歯学部附属病院医員（第二保存科）
- 平成4年 東京医科歯科大学歯学部附属病院助手
（歯科保存学第二講座、第二保存科）
- 平成6年 東京医科歯科大学歯学部助手（歯科保存学第二講座）
- 平成10年 Visiting Instructor, Harvard School of Dental Medicine,
Boston, MA（3月～9月）
- 平成12年 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 生体支持組織学系専攻
生体硬組織再生学講座 歯周病学分野 助手
- 平成16年 東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科 口腔健康推進統合学講座
口腔疾患予防学分野 教授（～現在）
東京医科歯科大学 歯学部附属病院 歯科衛生士室長（～平成20年）
- 平成17年 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 歯科医療情報センター長（～平成19年）
- 平成19年 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 口腔ケア外来 外来診療科長（～現在）



東京医科歯科大学では、医学科、歯学科、保健衛生学科、口腔保健学科向けのICT活用教育として、講義の収録とオンデマンド配信、診療室・手術室からの同時中継講義、コンピュータシミュレーション教育等を実施している。

講義の収録とオンデマンド配信は、平成19年度採択の現代GP取組「ICT活用教育と従来型臨床現場実習の連携」として実施してきたもので、講義室に設置されたカメラとマイクからの映像・音声を、リアルタイムで圧縮して録画・録音し、講義収録サーバにアップロードして行っている。収録操作は、講義室に設置されたPC画面で録画ボタンをクリックする程度の簡単なものである。講義場所と日時を、講義担当者から附属図書館メディア情報掛にメール連絡すると、当該講義映像をeラーニングシステムにアップロードするために必要な情報が返信されることとなっており、おおむね翌日にはeラーニングシステム経由で指定した学生に配信できる。

診療室・手術室からの同時中継講義も、上記現代GPの取組として実施してきたもので、ICTの専門家でない医療職の教員が操作可能な簡単な装置により、手軽に診療室と講義室の双方向通信を確立できる。これにより、学生は、臨場感のある臨床現場映像をリアルタイムで視聴することができ、全学生で体験を共有することや、その場で術者に質問することもできる。

コンピュータシミュレーション教育は、平成20年度に終了した平成17年度採択の特色GP取組「医歯学シミュレーション教育システムの構築」による教育システムを活用して実施しているもので、これは平成21年度採択の大学教育・学生支援推進事業【テーマA】「コンピュータによる診療模擬実習の展開」に発展的に受けついで実施している。同システムでは、匿名化された症例写真を含む多数のオリジナル教材をeラーニングシステム上で活用し、コンピュータとの対話により実際の診療を学生に疑似体験させている。

これらのICT活用教育では、多数の著作物を使用しているが、本学では、著作権は著者である教員が保持し、その使用許諾を大学に与えることとして運用している。

2 福岡看護 eラーニング研究会、小倉第一病院におけるコンテンツ作成のインセンティブ付与と著作権処理

医療法人真鶴会 小倉第一病院 副院長
中村秀敏

<略歴>

平成 7年 3月	熊本大学医学部卒業	
平成 7年 5月	新日本製鐵(株)八幡製鐵病院内科	勤務
平成 8年 5月	筑前山田赤十字病院内科	勤務
平成 8年 11月	九州大学医学部附属病院第二内科病棟勤務	
平成 9年 5月	雪の聖母会聖マリア病院腎臓内科	勤務
平成 10年 5月	新日本製鐵(株)八幡製鐵病院内科	勤務
平成 11年 4月	九州大学医学部附属病院第二内科病棟勤務	
平成 12年 4月	九州大学大学院病態機能内科学	入学
平成 16年 4月	小倉第一病院	勤務
平成 16年 7月	医療法人真鶴会小倉第一病院副院長就任	
平成 20年 3月	福岡看護 eラーニング研究会代表幹事就任	



小倉第一病院では 2004 年に eラーニングを導入した。3 名ずつの看護師と臨床工学技士をコンテンツ作成担当者に任命した。各人、月 1 日をコンテンツ作成日として勤務することとし、1 日分の給与を支払った。勤務日数が多くなるが、当院は週休 2 日+有給休暇完全消化を実現しており、担当者からのクレームはなかった。作成者へのインセンティブとしては、給与が支払われることがメインであるが、さらに、スキルアップの実感、関連した学会発表も付加価値として挙げられる。一部、全くの無償でコンテンツ作成に参加してくれている人もいる。コンテンツの著作権は当院に帰属するものとしたが、作成担当者名は、コンテンツごとに明記した。画像データに関しては、院内の医療機器や物品をデジタルカメラで撮影したが、看護師免許とイラストレーターのキャリアを持つメディカルイラストレーターによる専門的なイラストも作成可能である。やむを得ず書籍からスキャニングした画像もあるが、出典を明記し、イントラネット内で限定された受講者のみにしかアクセスできないようにしている。

福岡看護 eラーニング研究会は 2008 年に発足し、福岡県内の 6 つの看護系大学（九州大学、産業医科大学、西南女学院大学、聖マリア学院大学、福岡県立大学、福岡女学院看護大学）、2 つの病院（産業医科大学病院、小倉第一病院）の総勢 17 名の幹事が、無償でコンテンツ作成に協力している。eラーニングを看護師の離職率改善につなげようとの思いで、社会貢献として参加される先生がほとんどである。しかし、ボランティア的な研究会活動に対して、構築した eラーニングを用いた研究テーマの提供をインセンティブとして用意する予定にしている。受講者のログからデータベースを構築し看護研究に役立てようとするプロジェクトであり、幹事から期待されている。メーリングリストからの情報提供や、勉強会の開催を、幹事へのサービスとしている。コンテンツの著作権に関しては、研究会に帰属するものとして研究会規約に明記している。財団法人九州ヒューマンメディア創造センターや株式会社アクシスなど、地元の財団、企業からの経済的、人的支援を大いに受けており、研究会活動には欠かせない動力源となっている。

3 慶應義塾大学医学部における ICT 活用コンテンツの実情と著作権処理

国際医療福祉大学 医学教育研修センター長、山王メディカルセンター (SMC) 院長
天野隆弘

<略歴>

昭和45年 慶應義塾大学医学部を卒業、医学部助手 (内科学教室) に

昭和46年 慶應義塾大学大学院医学研究科 (内科学専攻) 入学

昭和50年 同上修了

昭和55年～57年

アメリカ Baylor College of Medicine 神経内科教室に
Research fellow として留学

昭和58年～61年

大田原赤十字病院第一内科部長、神経内科部長

昭和61年 慶應義塾大学医学部専任講師 (内科学)

平成15年 慶應義塾大学医学部助教授

平成16年 慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター長

平成17年 慶應義塾大学医学部教授

平成21年3月 同上 退官

平成21年4月 国際医療福祉大学教授、医学教育研修センター長となる

国際医療福祉大学塩谷病院副院長をへて、現在は山王メディカルセンター 院長を兼務



平成15年に設立した慶應の医学教育統轄センターは、教育に関する統轄事業を始めた。

その一環で、先ず ICT を活用する教育環境の整備を始めた。病院、医学部に intranet を整備し、学生が PC 端末を介して自由に学内から課題検索する電子媒体の学習環境を図った。

従来図書館は PubMed など研究者のための整備に重点があったが、医学生、研修医を含めた臨床学習に向けた電子教材の導入を提案した。Up-ToDate 導入、Clini-e-Guide、今日の診療プレミアムなど 100 種類以上の e-text を導入、図書館ホームページを介して自由に 24 時間閲覧し学習可能な環境、すなわち'電子図書館'をめざしてきた。

一方、学内資金などで教材作成を目指すとともに、2007 年度からの現代的教育 GP「新しい ICT 導入による授業効果の向上」を得て、教材整備も加速して充実してきた。教材にアクセスできる intranet 対応サーバーとアクセスページを開設した。動画教材の作成、充実を目指しながら学外講演者による講演を記録し、HP で自由に繰り返し映像を学習出来るようにした。この際、紙媒体による著作権の移譲を書面で確認するよう努めた。

一方、平成 17 年 (2005 年) から、個人情報の保護に関する法律が施行され、医学教育教材にも新たな問題が出てきた。画像など必要な教材に、関係者からの書面による同意書を整備し、必要な場合には肖像権も合わせて取得する必要がある、その提案をしてきた。1 年生、臨床実習直前の 4 年生に、医療の個人情報への注意、画像教材などを学校側の教育教材以外には使用しない'2 次利用'を禁止する書類を整備し、説明して署名を求めた。医療現場や教材の背景にある医療個人情報、知的資産など法的な問題に関する学生教育の機会ととらえた。

以上、教育教材には、従来から慣例的に行われてきた文献の引用記入だけでなく、映像教材には、著作権、肖像権、個人情報など複雑な対応が求められている。

各大学が個別に教育教材を別々にそろえるには、膨大な時間、資金、努力を要する。

多くの医学部が参加して、お互い自由に法をクリアーして、二次をしない条件で教材をお互いが自由に使用できる教材データベースを持つ組織の構成が望ましいと考えている。

以上、慶應義塾大学医学教育統轄センターの教育教材に関する今までの活動、関係する知的資産に係る対応について述べたい。

4 九州大学における eラーニングコンテンツ作成とその著作権処理

九州大学 情報基盤研究開発センター 講師
井上 仁

<略歴>

昭和61年 九州大学理学部数学科卒業。
昭和63年 九州大学総合理工学研究科情報システム学専攻
修士課程修了。
昭和63年 日本電気株式会社入社。
平成2年 九州大学工学部助手。
平成12年 九州大学情報基盤センター(改組により現在情報基盤研究
開発センター)講師。
現在に至る。
主に情報通信技術を利用した教育支援のための研究と開
発に従事。



九州大学では、医療系の教育において eラーニングを利用したさまざまな教育プログラムに取り組んでいる。最近では、平成19年度に開始された「がんプロフェッショナル養成プラン」において九州地区の複数大学間で、医療系大学院科目の多職種間 eラーニングの導入と共有化を企画している。本プロジェクトにおいては、複数大学間で授業を受講するので、必然的にオンデマンド授業の要望が高くなる。オンデマンド授業のためのコンテンツ作成の過程において、実際に講義を担当する教員の許諾と、講義資料に使用される他人の著作物の利用許諾が大きな障壁となることが改めて問題になった。また、教材を作成する際の学内でのガイドラインが定められていないことも浮上した。

本講演では、他大学に講義を配信することに対する教員の意識、出版社に対する著作物利用許諾の具体的な手続きの状況、本学知的財産本部との話し合い、文部科学省への上申等、具体的な実践事例を紹介しつつ、eラーニングコンテンツ作成と利用における問題点を共有し、今後の対応と解決策を探る。

5 看護実践事例 eラーニングの実践とコンテンツ制作における著作権処理

大阪府立大学 総合教育研究機構 教授
真嶋由貴恵

<略歴>

広島県出身。保健師、看護師

博士（工学）

広島県豊田郡川尻町役場 保健師

国立呉病院 看護師

神戸市看護大学 基礎看護学講座 助手

産業医科大学 産業保健学部 第3看護学講座 助教授

平成16年 大阪府立看護大学 人・環境支援看護学領域
看護情報学分野 助教授

平成17年 大阪府立大学 看護学部人・環境支援看護学領域
看護情報学分野 准教授

平成20年 大阪府立大学 総合教育研究機構 教授



近年、インターネット等の ICT 技術の進展に伴い、eラーニングをはじめとする教育が積極的に行われるようになってきている。教育において利用される教材などの著作物は、従来の対面型授業と eラーニングでは著作権法上の取り扱いが大きく異なっている。また、著作権者については、その制作過程から、大学などの法人となる場合と個々の教員になる場合の両方が考えられる。

発表者は、これまで看護教育におけるコンピュータやインターネットを利用した教授・学習方法に関する研究を進めてきており、開発した看護実践事例の学習を支援する eラーニングシステムの枠組みを活用し、平成17年度から採択された大阪府立大学看護学部の現代 GP では、多くの事例教材の制作に関わってきた。本シンポジウムでは、教材開発における著作権処理等について、これまで実施してきた方法を紹介するとともに、看護・医療用コンテンツの特徴および使用上の注意すべき点、さらにこれからのコンテンツ共有の在り方について、皆様と情報を共有していきたいと考える。

1 医歯学シミュレーション教育システムによる教材開発と活用

須永昌代¹⁾, 山口久美子²⁾, 窪田哲朗³⁾, 大川 淳⁴⁾, 木下淳博¹⁾, 大谷啓一⁵⁾, 荒木孝二⁶⁾,
田中雄二郎⁷⁾

東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科 ¹⁾ 口腔疾患予防学分野,
東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 ²⁾ 臨床解剖学分野, ⁴⁾ 整形外科学分野,
⁵⁾ 硬組織薬理学分野, ⁷⁾ 臨床医学教育開発学分野,
東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究科 ³⁾ 生体防御検査学分野,
東京医科歯科大学 ⁶⁾ 医歯学教育システム研究センター

我々は、平成17年度 特色GP採択取組「医歯学シミュレーション教育システムの構築」によって、実際の臨床を疑似体験できるコンピュータシミュレーション教材を開発し、開発した教材を医学部、歯学部等の実習で活用してきた。今回は、医歯学シミュレーション教育システムの開発の過程と平成18年度から現在までの実施結果をもとに、e-learningでの教材活用状況について報告する。

2 医歯学シミュレーション教材を活用した自己学習状況について

大山 篤¹⁾, 須永昌代²⁾, 権沢勇司³⁾, 小長谷 光⁴⁾, 荒木孝二⁵⁾, 俣木志朗⁶⁾, 木下淳博²⁾

- 1) 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 歯科総合診療部,
- 2) 東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科 口腔疾患予防学分野,
- 3) 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 顎口腔外科学分野,
- 4) 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 麻酔・生体管理学分野,
- 5) 東京医科歯科大学 医歯学教育システム研究センター,
- 6) 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 科医療行動科学分野

東京医科歯科大学歯学部では、歯学科4年生が臨床を体験するモジュール内で、医歯学シミュレーション教育システムを使った臨床シミュレーション教育を行っている。このモジュールでは、授業時間外にもシミュレーション教材にアクセスしてよいことにしており、興味のある学生は自ら教材にアクセスして自己学習を進めている。本発表では、本学歯学科4年生が授業時間外に行った自己学習の状況について報告する。

取組紹介・話題提供

セッション1

14:00 - 14:15

3 オープンキャンパスでのアドミッション・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの提示のためのeラーニング活用

小松博義¹⁾，齋藤朝子¹⁾，元藤陽子¹⁾，木下淳博²⁾，芝 紀代子¹⁾

¹⁾ 文京学院大学 保健医療技術学部，²⁾ 東京医科歯科大学 歯学部

文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科の本郷キャンパスでのオープンキャンパス参加者を対象にオープンキャンパス用eラーニングを実施し、その中でアドミッション・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの明示を行い、これらが本学科を理解する上で参考になったかどうかを調査した。

取組紹介・話題提供

セッション1

14:15 - 14:30

4 オープンキャンパスへのICT活用教育の導入とその評価について

元藤陽子¹⁾，齋藤朝子¹⁾，小松博義¹⁾，木下淳博²⁾，芝 紀代子¹⁾

¹⁾ 文京学院大学 保健医療技術学部，²⁾ 東京医科歯科大学 歯学部

文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科のオープンキャンパスに訪れた参加者に本学科をより深く理解してもらうため、学科紹介のコンテンツ等を用いたeラーニングを実施し、これらeラーニングを用いた学科紹介が有効であったかどうかを検証した。また、コンテンツの評価等のアンケートを実施し、参加者の評価や興味をもったコンテンツの内容等の分析を行った。

5 「Why e-Learning？」にこだわった、産業医大における e-Learning 実践のご紹介

柴田喜幸

産業医科大学 産業医実務研修センター

e-Learning 元年といわれた 2000 年から早 10 年、残念ながら一般社会の e-Learning には当時の勢いはない。その原因の 1 つに「多くの実践が、e-Learning の必然がなかったため」と言われている。

昨今、大学、殊に医療系大学で e-Learning に注目が集まっているが、上記の轍を踏まないためには「Why e-Learning？」を追求することが不可欠と考える。

本発表では、専門医から学部基礎教育まで、「Why e-？」の視点に立った産業医大の取り組みをご紹介します。

6 e-ポートフォリオによる地域体験実習評価の試み

丹羽雅之^{1, 2)}, 鈴木康之¹⁾

¹⁾ 岐阜大学 医学部 医学教育開発研究センター (MEDC),

²⁾ 岐阜大学 大学院連合創薬医療情報研究科

岐阜大学医学部では1年生を対象とし、人生の初期、転換期、晩年期など人生のライフサイクルを理解するとともに、地域における医療や保健にも関心を向けることを目的に、地域における幼児（保育園）、妊婦（マタニティークリニック）、高齢者（高齢者向け診療所）と6週間にわたり一対一の継続的交流を行っている。従来学生評の一貫として紙媒体を使ったポートフォリオを用いてきたが、今回学生用体系的e-ポートフォリオ構築の一貫としてe-ポートフォリオによる地域体験実習評価システムを構築・実践したので紹介する。

取組紹介・話題提供

セッション2

15:15 - 15:30

7 ビデオによる解剖実習課題の示説：e-learning system の特性を活用した利用法の検討

秋田恵一，山口久美子

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 臨床解剖学分野

本年度に解剖実習をおこなったすべての学生に対して，人体解剖学の課題をビデオの前でプレゼンテーションを行なわせた．それを学内サーバーに保存し，学生が自由にアクセスし，掲示板によるディスカッションを行うとともに，内容および発表法について相互評価させることを試みた．解剖学ならびにプレゼンテーションの教育を目指したものである．これらについての学生の評価，教育効果などについて考察したので報告する．

取組紹介・話題提供

セッション2

15:30 - 15:45

8 ICTを活用したブレンド型授業による医学英語教育

岩田 淳

島根大学 医学部 医療社会文化学講座

島根大学医学部では、1, 2年生の医学英語教育において、ICTと対面授業を融合させたブレンド型の授業を今年度より展開している。

今回は、eラーニング英語学習教材「NetAcademy 医学英語コース」を活用した1年生「医学英語」、ならびにオープンソースの Moodle を活用した2年生「英文講読」の2つの科目におけるICTを活用したブレンド型授業の実践内容について報告する。また、「Perceptual Measure」と呼ばれる評価法による教材評価の結果について報告する。

9 看護教育における統合的 e ラーニングの試み

福間美紀¹⁾，中谷久恵²⁾，足立経一^{3, 4, 5, 6)}，勅使河原 薫²⁾，佐藤美紀子³⁾，小川智子²⁾，小林裕太^{1, 7)}

- 1) 島根大学 医学部 看護学科 基礎看護学講座， 2) 島根大学 医学部 看護学科 地域看護学講座，
3) 島根大学 医学部 看護学科 臨床看護学講座， 4) 島根大学 医学部附属病院 消化器内科，
5) 島根大学 医学部附属病院 臨床栄養部， 6) 島根大学 医学部附属病院 N S T，
7) 島根大学 総合科学研究支援センター 実験動物分野

本学科では、医学と看護学の専門領域が連携することで効果的な e ラーニングとしてテーマ型コンテンツの制作を試みた。テーマ別コンテンツは、カリキュラムの学年進行を考慮して、講義・演習・実習などと組み合わせることで高い学習効果を期待した。

専門領域を超えた教員同士の創意と協働により実現した統合的 e ラーニングの導入は、学生の興味と関心を高め、自己学習力の向上へつなげていくことねらいとしている。今回は「栄養と食事」をテーマとした具体的な 5 つのコンテンツの中から、“胃瘻の知識とケアの実際”における e ラーニングの方法について紹介する。

10 eラーニングで学ぶ医療コミュニケーション

山下早代子¹⁾，ニコラス・ユングハイム²⁾，中村千賀子³⁾，須永昌代⁴⁾，木下淳博⁴⁾

¹⁾ 明海大学 外国語学部 大学院 応用言語学研究科，²⁾ 早稲田大学 文学学術院，

³⁾ 東京医科歯科大学 教養部，⁴⁾ 東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科 口腔疾患予防学分野

医療コミュニケーション教育の重要性が認識される昨今だが、医師と患者の効果的な対人コミュニケーションをどう行えばよいかを文字資料の教科書のみで医学生・歯学生に指導するのは難しい。そこで本研究では東京医科歯科大学のeラーニング支援システムを利用してビデオ教材を作成し、学生が自主学習を行えるようなプログラムを開発中である。発表では、いくつかの教材ビデオサンプルを使いながら、本システムを紹介する。

11 国家試験対策を念頭に置いた医用工学分野での Web-Learning システムの活用

本間 達¹⁾，若松秀俊¹⁾，酒井伸枝²⁾，荒川恭子²⁾，関 貴行³⁾，芝 紀代子³⁾

¹⁾東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究科，²⁾埼玉県立大学 保健医療福祉学部，

³⁾文京学院大学 保健医療技術学部

臨床検査技師の国家資格試験科目の一つに医用工学概論がある。この科目は工学系分野の知識を問われるので、医学部保健衛生学科の学生には苦手意識が強い。しかし臨床現場の自動化を考慮すれば、すべての学生が一定以上の知識の習得が必要である。基礎学力の低下している大学生を教育するには、より多くの時間をかけなければならないが、カリキュラム編成上、時間配分には制限がある。そこで、Web-Learning を活用して、学生の自己学習を促してきたので、この成果について報告する。

12 歯科診療室—講義室間の学内 LAN 同時中継によるライブ講義システムの開発と評価

大塚紘未¹⁾, 須永昌代¹⁾, 吉田有里¹⁾, 小原由紀¹⁾, 小林宏明²⁾, 片桐さやか²⁾, 趙 永哲³⁾,
和泉雄一²⁾, 木下淳博¹⁾, 田上順次³⁾

東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科¹⁾ 口腔疾患予防学分野,
東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科²⁾ 歯周病学分野,³⁾ う蝕制御学分野

私共は、講義室の学生が口腔内の詳細まで含めた実際の歯科治療をリアルタイムに視聴でき、かつ体験を共有できるライブ講義システムを開発し、各種歯科治療のライブ講義に活用して、高い評価を得ている。今回、同時中継講義システムを改良し、操作性を向上させ、また治療時間が比較的長い歯周外科治療に関するライブ講義を実施した。第74回口腔病学会学術大会にて発表した内容について紹介すると共に、ライブ講義の実演を行う。

2月20日(土)の入場のご案内



①



③



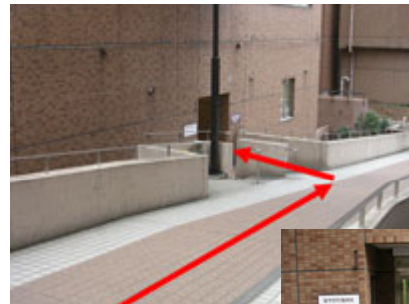
②



④



⑤



東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅 Shin Ochanomizu Station